

平成25年度第2学期始業式校長式辞

H25. 8. 30 (金) 9:10～ 体育館

お早うございます。こうして皆さんの元気な姿を見ることができ、大変うれしく思います。夏休みはそれぞれが有意義に過ごしてくれたことと思います。

2学期を始めるにあたり、3つのお話をしたいと思います。
まず初めは、夏休み中の活動に関してです。

部活動は、連日熱心に行われました。猛暑の中、外部活で熱中症気味になる生徒も出ましたが、大事には至りませんでした。厳しい環境の中で、共に励まし合い、最後まであきらめずにやり抜いたことで身に付けた「精神力」は本物です。それぞれの頑張りは、日焼けした顔や、自信に満ちたきりっとした表情に表れています。文武の両立を図ることで得られるものは、高校時代の大きな財産になります。辛くとも、がんばって両立させていきましょう。

学習面では、各学年で補習が行われ、3年生を中心に多くの生徒が真剣に受講していました。自習室や教室、図書館等で、熱心に自学自習や進路学習に励む姿が見られました。引き続きコツコツと努力を積み重ねてください。大きな行事を控えた今、限られた24時間をどう活用するか、ONとOFFの切り替えをいかに行うかが課題になります。隙間時間をうまく使って、学習時間の確保、学習量のUPを図ってほしいと思います。

学校行事関係では、文化祭に向け、生徒会、文化祭実行委員会、各参加団体が着々と準備を行っていました。体育祭に向け、団のパフォーマンス練習も行われていました。8月21日の粕壁小学校との「小高交流」では、生徒会本部署員とボランティア生徒が協力し、児童との親睦を深めました。

本校は明治44年、1911年に開校し、今年で創立103年目になりました。昭和5年、1930年に県立に移管されるまで、粕壁町立実科高等女学校として、粕壁小学校とは兄弟関係にありました。開校当初、自前の校地を持たなかった本校は、20年間、粕壁小に間借りし、授業を行っていました。現在の商工振興センターのあたりに校舎があり、校長も粕壁小の校長が兼ねていました。町立の時代に、3人の校長先生がいらっしゃったことがわかりました。

このように草創期に大変お世話になった粕壁小学校に対し、今、小高交流をとおして「恩送り」を実践しているとも言えましょう。今後とも粕壁小学校との交流を充実発展させていければと考えています。

国際教育関係では、2年生30名が参加したオーストラリア英語研修が無事終了し、それぞれが大きな成果を持ち帰りました。アメリカ、ハドンフィールド異文化研修は、1・2・3年生17名が参加し、ハドンフィールドの皆さんに温かく迎えていただきました。ハドンフィールド・メモリアル・ハイスクールの生徒との交流もでき、日米の異文化交流が推進できたことを喜んでいきます。

A L Tでは、キャサリン先生に代わり、エミリー先生が着任されました。留学生は、国際ロータリーの交換学生、トビンさん、エマさん、マカレナさんの3名を迎えました。その交換に、4名の春女生が、スウェーデン、ブラジル、メキシコ、カナダへと、1年間の海外留学に旅立ちました。

生徒募集関係では、第一回学校説明会を8月4日に市民文化会館で行いました。生徒会役員、放送部・音楽部・弓道部の皆さんの協力により、たくさんの中学生・保護者の参加を得て成功裏に実施することができました。私からは、春女で学ぶことの利点をお話ししました。1点目は、伝統校で学ぶということ。2点目は、女子校で学ぶということ。3点目は、外国語科設置校で学ぶということです。共感を持って受け止めてもらえ、志願増につながればよいと思っています。

2回目以降の学校説明会も、みなさんの協力が必要です。よろしくお願いたします。先輩の姿を見てあこがれ、入学を志願したみなさんが、入学後はあこがれられる立場に回り、それが次々につながっていくというのも、「恩送り」の一つの方法ですね。

昨日、この春、本校を卒業し、大学に進学した元生徒会長さんが、大学のP Rを兼ね、高校側から大学に対する要望を聞くという目的で来校しました。大学が募集したボランティアに手を挙げ、仲間とともにオープンキャンパスの運営や母校訪問に携わっているとのこと。「楽しく充実した大学生活です」と語る彼女は、とてもいきいきとしていました。しなやかにたくましく生きる春女OGに、心からのエールを送りました。

以上、夏休み中のどの活動からも、皆さんのひたむきさが伝わってきました。暑い中で一生懸命に取り組む皆さんの姿を見て、元気をもらいました。コツコツと積み重ねた努力が、秋以降の成果へつながることを期待します。皆さんの進路実現のため、先生方と協力し指導を充実させていきたいと考えています。

暑く、厳しい環境の中で熱心にご指導くださいました先生方に、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、2つ目は、「夢から志へ」というお話をします。この夏、私はPTAの全国大会で山口県に参りました。大会のテーマは「夢から志へ」でした。

「志」とは、こうしようと心に決めた目的や望みを言います。もう少し大きく捉えて、人生において、自分のためだけでなく、多くの人々のために、また世の中のために、大切な何かを成し遂げようという決意を言います。

国内政治が混乱する中、外圧（外部から加えられる圧力）が押し寄せた幕末（江戸幕府の末期）に、長州、山口県の長州藩から、多くの志ある人材が輩出しました。萩市に「松下村塾」という学問所があり、吉田松陰という思想家が、ここで若者たちに学びを授けました。「幕末の志士」と呼ばれる、明治維新とその後の日本の近代化に大きな影響を与えた、高い志を持って国のために尽くそうとした若者たちです。坂本龍馬も塾生の一人でした。

残念ながら、吉田松陰は、数え30才の年に、国禁（国の法律で禁じられていること）を犯し、幕府によって処刑されてしまいます。日本に来航した黒船に乗り、海外密航を企てた罪に問われたのです。しかし、彼の残した言葉は、今も多くの人々の精神的な支えになっています。「夢なき者に成功なし」の言葉が入った一節があります。一度お話しましたが、もう一度紹介しましょう。

夢なき者に理想なし、
理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし、
故に、夢なき者に成功なし。

松陰は、「何をするにもまずは夢（目標）を持つことが大事だ」と言っています。将来自分はどのようなことをやりたいのか、何になりたいのか、できるだけ具体的にすることができるとよいですね。しかし、この段階で、将来の具体的な目標が決まっていないという人もいるでしょう。その人は、身近なことを目標にしましょう。部活動などの大会で○位になる、□大学に合格する、☆の資格を取るなどです。その夢の実現に向けて計画を立て、その計画にしたがって毎日の学習や練習等を確実に実行に移していくのです。苦しくても、辛くても実行に移していくことが大切です。その際、何かを成し遂げようという決意、すなわち「志」を持てるかどうか成功の鍵を握っています。是非とも「志」を立てましょう。

今回の山口行きで学んだ、「夢から志へ」の言葉を皆さんに贈ります。

さて、最後、3つ目は、米大リーグ、ヤンキースのイチロー選手についてです。敬愛するイチロー選手は、先頃、「日米通算」4000本安打の偉業を達成しました。大リーグで4000本を超える安打を達成した選手は、2人しかいないというものすごい数字です。

私がイチロー選手に魅かれるのは、類まれなる才能を持ちながら、常に高い向上心を持ち、謙虚に、一步一步小さな努力を積み重ね続けている姿勢です。

10月に40才を迎えるイチロー選手は、これまでも独特の言葉でファンを魅了してきました。「小さなことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただ一つの道と思う」という名言がありますが、私の好きな言葉です。

大記録を打ち立てた日も、安打の数を、「失敗をいっぱい重ね、たまにうまくいくことの繰り返し」と表現し、「しんどいけれど、続けていきたい」と笑顔を見せました。今回、記者会見で彼が語った生の言葉を3つ紹介しましょう。

「4000の安打を打つには、8000回以上は悔しい思いをしてきている。それと常に自分なりに向き合ってきた。誇れるとしたらそこではないか」

「満足したら終わりというけれど、それは弱い人の発想。僕はものすごい小さなことでも満足するし、達成感も感じる。それを感じることで『次』がうまれる」

「諦められないんですよ、いろんなことを。野球に関してはなかなか妥協はできない。『休む日は休む』ということができない」

イチロー選手の不断の努力、高い向上心、ぶれない生き方から、多くを学ぶことができます。イチロー選手に少しでも近づければという思いで、自分のやる気を高め、小さな努力を続けていければと思っています。

最後になりますが、2学期は文化祭、体育祭、修学旅行、持久走大会等、行事が多い学期です。3年生、66期生にとっては、進路決定の鍵を握る重要な学期です。自分の夢、目標をしっかりと持ち、志を固め、目標達成に向け、日々の生活を着実に過ごしてください。何事にも粘り強く取り組み、自分の納得できる結果へつなげてほしいと願っています。

思い出に残る、すばらしい学期にしていきたいと思います。

先生方には、長丁場になりますが、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。